

「夢の島」と第五福竜丸

東京駅から京葉線で新木場に行き、夢の島公園にある「東京都立第五福竜丸展示館」に向かった。1976年に開館した展示館に入ると、木造のマグロ漁船「第五福竜丸」がせまってくる。船は全長約30m、高さ15m、幅6mという。遠洋漁業に出ていた木造漁船をまじかに見ることができる。



「第五福竜丸」は、1954年3月1日に太平洋のマーシャル諸

島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験によって大きな被害を受けた。毎年、「3.1 ビキニデー」として記念行事が開催されている。館内には水爆実験被災の被害、乗組員の症状、まぐる騒動、放射能雨、原水爆反対の運動など数多くの資



料が展示されている。展示館前ひろばには、被曝で亡くなった久保山愛吉さんの記念碑、福竜丸のエンジン、マグロ塚石碑がある。

東京都立「夢の島公園」は、ごみ処分場として埋め立てられた土地に1978年に開園した。スポーツ施設や熱帯植物園などが整備され、現在では緑多い島として親しまれている。夢の島というと「ゴミ戦争」が思い出される。柴田徳衛先生の名著『現代都市論』を引用しよう。「昭和45年をみると、毎日1万トン余のゴミを都は特別区内で収集していたが、その6割は江東区を通過し東京湾に埋め立てていた。毎日数千台のゴミ・トラックの通過に反対した江東区民は、46年9月についに強い抵抗運動に立上り、同年末についに美濃部都知事は問題解決をめざし『ゴミ戦争』を宣言した。」

雨が降り続いて夢の島公園をじっくり歩けなかったが、「第五福竜丸」や「ゴミ戦争」など、戦後史的一幕を考えさせられた。

(2010年3月14日 記)